

令和3年度

学生によるオレンジリボン運動

東北公益文科大学 実施報告書



実施主体 オレンジリボンチーム 2021

実施内容 ①児童虐待に関する学習

②オレンジリボンとオリジナルポストカードの作成

③オレンジリボンの配布と啓発

①事前に取り組んだ内容

①9/24（金）LINE オープンチャットを開設し、オレンジリボンチーム 2021 のメンバー募集と連絡体制を整備した。

②9/29（水）本学の社会福祉士を志望する学生を対象にガイダンスにて周知した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

①児童虐待に関する学習

・講演会への参加：FORUM21「子どもと家庭の支援を考えよう—保育の現場から地域へ—」の受講（11月6日（土））

②オレンジリボンとオリジナルポストカードの作成

③オレンジリボンの配布と啓発

・社会福祉士実習指導者講習会参加者へオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布と啓発（10月31日（日））

・放課後等デイサービス「みんなのそら」の職員の方々へオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布と説明（11月5日（金））

・FORUM21 参加者へのオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布と説明（11月6日（土））

・令和3年度酒田市虐待防止講演会参加者へのオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布（11月9日（火））

・山形県しあわせ子育て応援部子ども家庭支援課へオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布（11月18日（木））

・児童家庭支援センター「シオン」の職員の方々へオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布（11月26日（金））

・日向コミセンで地域の人々へオレンジリボン、オリジナルポストカードの配布（11月26日（金））

・「山形県オレンジリボンキャンペーン」ライトアップ写真撮影（in 山居倉庫、日和山公園）（11月29日（月））

③オレンジリボン運動を終えて・・・

今回の活動を通じて、本学のある山形県庄内地域を中心に児童虐待の実態や現状について学ぶ機会をつくることができた。そしてコロナ禍だからこそ、その都度自分たちができることは何かを考えることで、児童虐待防止の輪を広げていくことができると考えた。

学内では、子ども支援に興味がある学生が多い教員のゼミ生とともにオレンジリボンを作成することができた。学外では、山形県様をはじめ、児童家庭支援センターや放課後デイサービス、県内に勤務している社会福祉士の専門職の方々、地域住民の方々とながることができた。

私たちは子どもの健やかな成長のために、家庭内の保護者のみならず、地域や社会のなかで子どもを育てていくことの大切さを実感することができることを今回の活動から学ぶことができた。例えばFORUM21の講演の内容では、「児童虐待を見つけたらすぐに通報する」ということについて、地域の中で助け合いが強かったり、周囲の人々が常に気遣ってくれたり、子どもを見てくれる環境が整うような地域づくりがあることで、その家庭が孤独にならず住みやすい環境をつくることのできるのではないかと。また地域住民に限らず、専門職として働いているの方々においても児童虐待が起らないように、子どもたちが過ごしやすい環境を調整したり、連携やネットワークがとりやすい活動を展開していくことが必要と感じた。

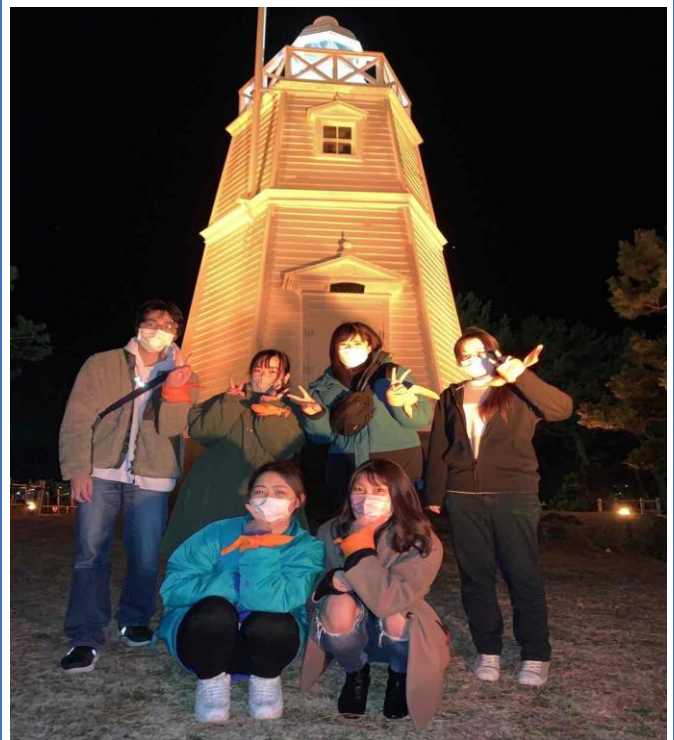
そのために、来年度以降も活動が継続できることを願っており、また学内にあるボランティアサークルや不登校支援の学生活動団体、保育士を目指している学生、児童福祉分野に興味がある学生などとのコラボレーションの実現を図ることで、今後の活動の発展の可能性が感じられた。



オレンジリボンチーム 2021 のメンバーです。



学生たちの手作りによるオレンジリボン



毎年 11 月にオレンジリボンイメージしてライトアップされる日和山公園六角灯台(山形県酒田市)にて撮影。